

資料No. 1

第5期大島区地域協議会の 活動報告

○ 地域協議会とは

地域協議会は、地域に暮らす住民の皆さんが委員となって、地域の課題解決や活性化に向けた議論・検討を行う組織であり、市内全28の地域自治区ごとに設置しています。

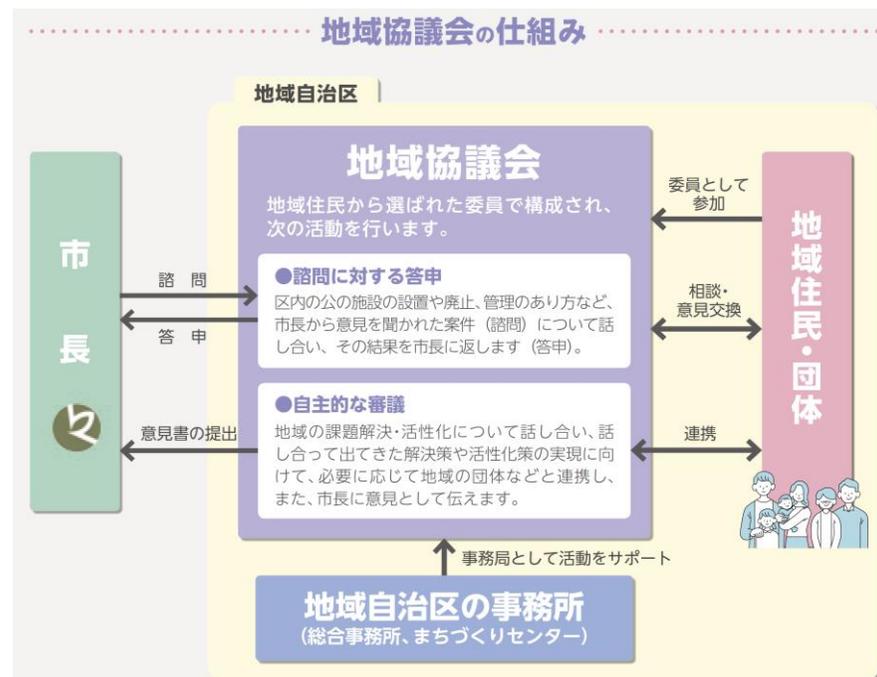
○ 地域協議会は、どんなことをしているの？

① 地域の課題解決

住民の皆さんの視点から地域の課題を見つけ、解決に向けて取組ます。

② 市からの諮問に対する答申

市長から意見を求められた案件(例:区内の公の施設の設置や管理の在り方など)について話し合い、市長に意見を返します。



○任期 令和2年4月29日～令和6年4月28日

令和6年2月1日現在

役 職	氏 名	住 所（町内会）
会 長	丸田 新一	大島区大平（大平）
副会長	武田 昌午	大島区中野（中野）
委 員	飯田 國男	大島区菖蒲（菖蒲東）
//	飯田 多津子	大島区仁上（熊田）
//	飯田 敏郎	大島区菖蒲（菖蒲東）
//	内山 信	大島区田麦（田麦）
//	内山 元栄	大島区大平（大平）
//	武江 一義	大島区大島（大島）
//	中村 朝彦	大島区上達（上達）
//	丸田 松男	大島区岡（下岡）
//	山岸 久雄	大島区田麦（田麦）

大島区地域協議会の活動実績

○会議の開催状況

※令和5年度は、令和6年2月1日現在

年度	開催回数	委員出席率	延べ傍聴者数
令和2年度	9回	95.4%	28人
令和3年度	11回	84.1%	45人
令和4年度	12回	88.2%	9人
令和5年度	9回	70.5%	14人



○出張地域協議会

開催日	開催会場	傍聴者数
令和2年10月30日	大島生活改善センター	12人
令和2年11月27日	大島若者交流会館	9人
令和3年11月24日	大島旭農村環境改善センター	7人
令和3年12月13日	菖蒲農村環境改善センター	9人
令和4年1月26日	大島生活改善センター	13人
令和4年2月18日	大島若者交流会館	10人
令和5年11月28日	大島生活改善センター	8人
令和5年12月20日	大島若者交流会館	1人

○諮問事項の審議

10件

令和6年2月1日現在

諮問日	諮 問 事 項	担当課
令和元年10月11日	大島中学校屋外運動場照明設備の廃止について	スポーツ推進課
令和3年7月29日	上越市過疎地域持続的発展計画(案)について	自治・地域振興課
令和3年8月26日	大島農業実習交流センターの廃止について	農村振興課
令和3年8月26日	大島ゆきわり荘の廃止について	農村振興課
令和4年8月9日	新市建設計画の変更について	企画政策課
令和4年8月17日	大島中学校の廃止について	教育総務課
令和4年9月8日	あさひの里田麦ぶなの森園の廃止について	農林水産整備課
令和4年11月29日	大島あさひ荘の廃止について	施設経営管理室
令和4年11月29日	大島大山広場の廃止について	施設経営管理室
令和5年7月5日	上越市過疎地域持続的発展計画変更(案)について	地域政策課
令和5年8月31日	大島保健センターの廃止について	健康づくり推進課

○自主的審議事項 0件



○視察研修の実施状況

年度	視察先	目的
令和2年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
令和3年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
令和4年度	women farmers japan 株式会社（十日町市） 柏崎市高柳町荻ノ島集落	移住者が活躍している集落を視察し、移住者の取組や受入集落のサポートの状況等について把握することにより、今後の地域づくりに向けた議論への参考とする。
令和5年度	木籠メモリアルパーク 山古志闘牛場 やまこし復興交流館おらたる (長岡市山古志地域)	中越地震で大きな被害を受けた山古志地域の復興状況を視察する。地域の人々がどのような方法で復興し、地域振興に向けて努力しているかを視察することで、委員の知識を深め、大島区の地域活性化につなげていくこと。

○「大島区地域協議会だより」の発行

地域協議会の活動を住民の皆さんに周知するため、定期的にたよりを発行し、全戸配布しています。



年度	発行号数	発行日	主な掲載内容
令和2年度	第34号 第35号	令和2年6月 令和3年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5期地域協議会委員の紹介 ・地域活動支援事業の採択事業
令和3年度	第36号 第37号 第38号	令和3年7月 令和3年10月 令和4年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会の概要について ・地域活動支援事業の採択事業 ・出張地域協議会について
令和4年度	第39号 第40号 第41号	令和4年7月 令和4年12月 令和5年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会の概要について ・地域活動支援事業の採択事業 ・視察研修について ・住民アンケート結果について
令和5年度	第42号 第43号 第44号	令和5年7月 令和5年10月 令和6年3月(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会の概要について ・大島区の地域活性化の方向性について ・視察研修について

○住民アンケートの実施

【目 的】 大島区地域協議会で地域の活性化の方向性を検討するにあたり、大島区在住の幅広い世代の住民から、様々な思いや考えなどの情報を収集するため、住民アンケートを実施する。

【対 象 者】 中学生以上の住民(1,129人)

【調査期間】 令和4年12月から令和5年1月まで

【回 収 率】 80.2%



Q大島区の好きなところや自慢は何ですか？

- 【1位】 おいしいお米
- 【2位】 山の恵み（山菜など）
- 【3位】 四季の景色
- 【4位】 ほたるが多い

Q困っていることや不安は何ですか？

- 【1位】 屋根や玄関の除雪
- 【2位】 自分や家族の健康
- 【3位】 病院などの通院
- 【4位】 働く場所が少ない

○大島区地域活性化の方向性の作成

【目 的】

地域協議会による地域の活力向上に向けた議論を進めるに当たり、委員間の認識の共有はもとより、地域協議会と市の連携を深めるほか、市として取組の企画のベースとする考え方をまとめることから、住民主体の機関である地域協議会において「地域活性化の方向性」を作成するもの。

【スローガン】

大島区の豊かな自然、地域性を活かした住みやすいまちづくりを目指します

【構成要素】

- ・豊かな自然を生かしたイベントの工夫
- ・生活実態に見合った安心、安全な暮らしの推進
- ・米や山菜を活用した特産品の売り込み
- ・女性や若者が参入しやすい環境づくり
- ・伝統行事を継続させる取組



○地域活動支援事業の採択

<令和2年度>

6事業

(単位:千円)

事業名(団体名)	事業費	補助額	事業概要
伝統行事伝承事業 (田麦町内会)	463	460	地域の伝統行事が失われつつある中、地域一丸となって賑わいを維持しているが、祭りの準備に相当な労力が必要であり、資材の経年劣化が著しい状況となっている。今年度の祭りは未定であるが、賑わいや交流の場である「祭り」が途絶えることのないよう地域住民の交流や士気を保つことを目的とする。
旭地区PR事業 (旭地区協議会)	852	850	市内でも旭地区の認知が低いものの、暮らし知恵や豊かな自然が存在するため、より多くの方から地域の魅力を知ってもらうほか、地域に訪れてもらい、地域住民の活力及び地域の活性化を図ることを目的とする。
薬師岳登山道整備及びPR事業 (細越平生会)	1,033	1,020	薬師岳は地元住民に親しまれ里山であったが、登山者が激減し山道等は整備されていない状況にある。古くからの地域の象徴であった資源の魅力を再発掘し、新たな取組とリンクさせて、改めて”地域の宝”の創出を目指すことを目的とする。
「仁上ホタルの軌跡」記録・伝承事業 (仁上町内会)	1,095	1,040	大島の代名詞「ホタル」の生息保護や祭りを維持するため、今日まで様々な苦労があったものの、高齢化により今後の取組の継続や歴史の継承が危惧されている。イベントが出来ない状況下を契機とし、これまでの歩みや写真・動画を記録に残し、後世に伝えることを目的とする。
大島区魅力発見PR事業 (大島まちづくり振興会)	510	500	市町村合併後、当区全体を網羅した外部発信機能がなく、当振興会も情報発信を行う手段を持たないまま現在にきている。このことからホームページを構築し、組織や活動の周知を図るとともに、区内のイベントや観光情報を発信する。併せて区内団体・事業者等とリンクし発信力を高めることを目的とする。
交流空間創出事業 (光里の環)	1,064	1,030	大島区並びに大島地区には様々なイベント時に幅広い年齢層の来訪があるものの、滞在できる場所がなく地域住民と来訪者の交流が図られていない。また転出により空き家が増加するなか、今後の地域の在り方を地域住民と市内若年層とが話し合うほか、試験的な取組を行い検証することを目的とする。

○地域活動支援事業の採択

<令和3年度>

8事業

(単位:千円)

事業名(団体名)	事業費	補助額	事業概要
ふるさと・ふれあい交流事業 (熊田町内会)	638	630	お盆期間中に交流会(花火打ち上げ及び写真展)を実施し、町内会の住民のほか、集落出身者や子ども達の参加を募る。また、写真、町内会の活動、交流会そして花火の打ち上げの模様を収めた「思い出アルバム」を作製し、関係者に配布することにより、町内会内のつながりや支え合いを深め、集落外居住者との“つながりの輪”の継続と強化を図るほか、集落の維持が困難に陥った場合の不安や課題等について、世代や居住地を超えて検討する場とする。
細越夏まつりの維持・継続事業 (細越町内会)	660	660	伝統行事である夏祭りで使用する神輿が老朽化したため修繕し、子供達と一緒に練り歩くなど、地域住民が一体となって祭りを盛り上げることにより、地域行事の継承、後継者の育成、地域の活性化を図る。
ジュニアバレーボールの普及及び青少年健全育成事業 (安塚大島レッドウィングス)	212	96	体験教室を開催し、バレーボールの普及と保護者及び子どもたちの支援者を通じ地域との関わりを深め、長年使用しているユニフォームや応援用の横断幕を更新することにより、一体感の醸成や子供たちのモチベーションやスキルアップを図る。また、バレーボールを通じ、礼儀、コミュニケーション能力、考える力の育成など、子供たちの心身ともに健全な育成を図る。
大島地区活性化ビジョンの実現に向けた視察研修事業 (大島地区振興協議会)	136	131	社会環境が大きく変化する中で地域コミュニティの再生を図るために大島地区活性化ビジョンを策定した。未来につなげる持続可能なふるさとづくりの一步とするため、先進地である魚沼市の「ものずき村」を視察する。
上越市指定文化財「板山不動尊」伝承事業 (板山町内会)	712	711	上越市指定文化財である「板山不動尊」の看板を作製するほか、地域の伝統行事である「十日夜」を実施することにより、交流の場を維持し、地域資源を守る。

○地域活動支援事業の採択

<令和3年度>

8事業

(単位:千円)

事業名(団体名)	事業費	補助額	事業概要
薬師の利活用を目的とするコンテンツの企画運営事業 (細越平生会)	2,033	1,942	上越市の「地域の宝」に認定された薬師山道について、前年度に引き続き登山道の整備を行う。また、3つのコンテンツ事業(「(仮称)薬師山道アートプロジェクト」、「(仮称)薬師サウナプロジェクト」、「(仮称)薬師 雪フェスプロジェクト」)や交流活動等を実施することにより、地域資源の掘り起こしや交流人口の増加につなげる。
大島区魅力発見! 景観・いきいき写真コンクール2事業 (大島まちづくり振興会)	110	110	令和2年度に引き続き「景観・いきいき写真コンクール」を開催し、作品をコミュニティプラザに展示するほか、まちづくり振興会のホームページに掲載することにより、大島区のさらなる魅力を発掘し、発信する。
田麦ぶなの森園来訪促進事業 (里山イノベーション研究会)	666	666	田麦ぶなの森園のPR動画を作製し、イベント情報とあわせてSNS等により発信するほか、イベントを開催することにより、ぶなの森園の”存在”と”魅力”を多くの人に知ってもらい、利用者の増加につなげる。



○地域活動支援事業の採択

<令和4年度>

4事業

(単位:千円)

事業名(団体名)	事業費	補助額	事業概要
「うるおいあふれるほたるの里」 ～未来へつなげる持続可能なふるさとづくり～活動冊子作製事業 (大島地区振興協議会)	1,019	998	「うるおいあふれるほたるの里」としてのこれまでの地域づくりの活動の歩みを冊子にまとめ、次世代につなげるとともに、多くの行事や出来事、地域の資源・宝物などの有形・無形の魅力等を再発見・再認識し、地域への愛着を深める。
大島区ガイドマップ作製及び写真コンクール事業 (大島まちづくり振興会)	454	450	大島区のさらなる魅力を発掘し、発信するために大島区写真コンクールを開催し、応募された作品に加え、今まで開催した「景観・いきいき写真コンクール」の作品を活用して、大島区のガイドマップを作製し、大島区の魅力に触れてもらう機会を創出する。 また、大島区写真コンクールの作品や大島区のガイドマップをまちづくり振興会のホームページ掲載やイベントで活用することで、大島区の魅力や観光情報等を広く発信し、地域の活性化に寄与する。
持続可能な活動を目的とする「薬師コンテンツ」創出事業 (細越平生会)	1,707	1,572	薬師山道の整備も継続して行いながら、前年度に実施したコンテンツ事業に加え、新たなコンテンツ事業を実施することにより、地域資源の掘り起こしと交流人口の増加につなげる。地域資源を活かしたコンテンツ事業の実施や視察研修、他団体との意見交換会により会員の視野が広がり、知識が向上されるとともに、他団体と協力しながら次年度の事業に向けた活動が展開できる。
上越市指定文化財「板山不動尊」PR事業 (板山町内会)	787	786	「板山不動尊」の誘導看板を道路沿いに設置するほか、アウトドアサウナイイベントを開催し、「板山不動尊」の認知度を上げることにより、交流人口の増加につなげる。